

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	名古屋ビューティーアート専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門	美容科	夜・通信	82 単位	6 単位	
	ヘアメイク科	夜・通信	57 単位	6 単位	
	トータルビューティ科	夜・通信	206 単位	6 単位	
	エステティック科	夜・通信	98 単位	6 単位	
	美容研究科	夜・通信	36 単位	3 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」を職員室に設置し、広く一般に公開

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋ビューティーアート専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R2.4.1 ~ R6.3.31	法務
非常勤	公認会計士	R2.4.1 ~ R6.3.31	財務
非常勤	弁護士	R3.6.1 ~ R7.5.31	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋ビューティーアート専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。</p> <p>原則として法人統一の様式を使用し、客観的に分かりやすい「授業計画」「到達目標」「成績評価基準」を作成・公表している。 公表はインターネットによる他、授業内で当該生徒へ説明する。また、習熟度等に応じて授業計画が変更される場合は、都度説明を行うものとする。(公表の時期は毎年度4月を目途とする)</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-beauty/disclosure/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果(試験、レポートの他、平素の履修状況等)を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 全履修科目の評定(5点法で示されたもの)の和を科目数で除したものを「評定平均」とし、年に2回(期末ごとに)一覧管理を行うことで、成績の分布状況を把握する。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-beauty/disclosure/schoolinfo.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。 なお、卒業を認める者については課程において設定した目指すべき人材像を満たすことを求める。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.sanko.ac.jp/nagoya-beauty/disclosure/schoolinfo.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	名古屋ビューティーアート専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
財産目録	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
事業報告書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生分野		衛生専門課程	美容科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	67単位	19単位	58単位	2単位	0単位	28単位
			107単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
350人		266人	0人	11人	9人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
（概要） 教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入した5点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は1とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。

<p><目指すべき人材像> 美容師国家資格を取得し、美容技術を通して社会で活躍する人材</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
78人 (100%)	0人 (0%)	75人 (96.1%)	3人 (3.9%)
<p>(主な就職、業界等) 美容師やネイリスト、アイリスト、美容部員等美容業界での就職。</p>			
<p>(就職指導内容) 履歴書添削や面接指導だけでなく、各サロン・企業様による会社説明会（ガイダンス）を年に数回実施。また美容業界のプロの方によるデモンストレーションを取り入れた授業内容も展開している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師国家資格・ABEまつ毛エクステンション AJESTHE認定フェイシャルエステティシャン・AJESTHE認定ボディエステティシャン トータルメイクアップ検定ベーシック・アドヴァンス JNECネイリスト技能検定試験1～3級、JNAジェルネイル技能検定試験初級～上級 パーソナルカラーコーディネーター検定ベーシック きもの講師免許2～3級、サービス接客検定1～3級、花嫁着付け3級 ブライダルメイクアップ検定、アシスタントウエディングプランナー検定</p>			
<p>(備考)（任意記載事項） コース専攻により取得できる検定が異なる</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
188人	11人	5.9%
<p>(中途退学の主な理由) 美容学校を勧められ美容業界に興味を持ち入学したが、目標喪失や家庭の事情、他業界への進路変更、対人関係を理由に退学する傾向がある。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 面談の回数を重ね、当事者の退学理由を追求するだけでなく担任だけではない他教員と連携を取り、情報共有をするよう努めている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生分野		衛生課程	ヘアメイク科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	67 単位	17 単位	18 単位	2 単位	0 単位	30 単位
				67 単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
280 人	175 人	0 人	2 人	10 人	12 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。</p> <p>科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。</p> <p>なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。</p> <p><目指すべき人材像></p> <p>美容師国家資格を取得し、ヘアメイク技術を通して社会で活躍する人材</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
62 人 (100%)	0 人 (0%)	62 人 (100%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等) 美容師や美容部員等美容業界での就職や、ヘアメイクアップアーティストの事務所に就職。
(就職指導内容) 履歴書添削や面接指導だけでなく、各サロン・企業様による会社説明会（ガイダンス）を年に数回実施。また美容業界のプロの方によるデモンストレーションを取り入れた授業内容も展開している。
(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師国家資格、トータルメイクアップ検定ベーシック・アドヴァンス 日本化粧品検定2級、パーソナルカラーコーディネーター検定ベーシック きもの講師免許2～3級、サービス接客検定1～3級
(備考)（任意記載事項） コース専攻により取得できる検定が異なる

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
135人	6人	4.4%
(中途退学の主な理由) 美容学校を勧められ美容業界に興味を持ち入学したが、目標喪失や心神喪失、他業界への進路変更、対人関係を理由に退学する傾向がある。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談の回数を重ね、当事者の退学理由を追求するだけでなく担任だけではなく他教員と連携を取り、情報共有をするよう努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生分野		衛生専門課程	トータルビューティー科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62単位	122単位	145単位	14単位	0単位	13単位
			294単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		275人	0人	9人	22人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。

成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。</p> <p>科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。</p> <p>なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。</p> <p><目指すべき人材像></p> <p>主体性・多様性・協働性を身につけ、様々な美容現場で活躍する人材</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
139 人 (100%)	1 人 (0.7%)	116 人 (83.5%)	22 人 (15.8%)
(主な就職、業界等) ネイリスト、美容部員等美容業界での就職			
(就職指導内容) 履歴書添削や面接指導だけでなく、各サロン・企業様による会社説明会（ガイダンス）を年に数回実施。また美容業界のプロの方によるデモンストレーションを取り入れた授業内容も展開している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) トータルメイクアップ検定ベーシック・アドヴァンス、日本化粧品検定 2 級 JNEC ネイリスト技能検定試験 1～3 級、JNA ジェルネイル技能検定試験初級～上級 JNA ネイルサロン衛生管理士、パーソナルカラーコーディネーター検定ベーシック きもの講師免許 2～3 級、サービス接客検定 1～3 級			
(備考)（任意記載事項） コース専攻により取得できる検定が異なる			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
320 人	50 人	15.6%
(中途退学の主な理由) 美容学校を勧められ美容業界に興味を持ち入学したが、学業不振、心神喪失、目標喪失や他業界への進路変更、対人関係を理由に退学する傾向がある。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談の回数を重ね、当事者の退学理由を追求するだけでなく担任だけではない他教員と連携を取り、情報共有をするよう努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生分野		衛生専門課程	エステティック科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	51 単位	52 単位	2 単位	0 単位	8 単位
				113 単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		83 人	0 人	8 人	9 人	17 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2 月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。
成績評価の基準・方法
(概要) 教務規程に基づき、各学生の学習成果 (試験、レポートの他、平素の履修状況等) を総合的に勘案し評価を行うものとする。 科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。 なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。 <目指すべき人材像> 職種に応じ必要とされる資格を取得し、エステティック技術を通して社会で活躍する人材

学修支援等
(概要) クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34人 (100%)	0人 (0%)	34人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) エステティシャン、美容部員等美容業界			
(就職指導内容) 履歴書添削や面接指導だけでなく、各サロン・企業様による会社説明会（ガイダンス）を年に数回実施。また美容業界のプロの方によるデモンストレーションを取り入れた授業内容も展開している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) CIDESCO インターナショナル エステティシャン、AEA 上級認定エステティシャン AJESTHE 認定エステティシャン、AJESTHE 認定上級エステティシャン JEO 認証エステティシャン、TRADITIONAL ABIAN アロマセラピー検定（アドバイザー）1～2級、ダイエット検定1～2級 トータルメイクアップ検定ベーシック・アドヴァンス JNEC ネイリスト技能検定1～3級、美肌検定、サービス接客検定1～3級			
(主な就職、業界等) エステティシャン、美容部員等美容業界			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
95人	10人	10.5%
(中途退学の主な理由) 美容学校を勧められ美容業界に興味を持ち入学したが、学業不振、心神喪失、単位不良や他業界への進路変更、対人関係を理由に退学する傾向がある。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 面談の回数を重ね、当事者の退学理由を追求するだけでなく担任だけではない他教員と連携を取り、情報共有をするよう努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生分野		衛生専門課程	美容研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	31 単位	21 単位	9 単位	0 単位	0 単位	7 単位
			37 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
36 人		20 人	0 人	5 人	5 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、法人統一の「シラバス作成ガイドライン」にのっとり作成する。作成にあたっては生徒より取得する授業評価アンケートをもとに毎年度改善を図り、2月を目途に実施される教員会議において連携科目間の調整を行っている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>教務規程に基づき、各学生の学習成果（試験、レポートの他、平素の履修状況等）を総合的に勘案し評価を行うものとする。</p> <p>科目ごとにシラバスにあらかじめ定められた評価基準に基づき 100 点法で素点を出し、それを 20 で割り四捨五入した 5 点法に換算する。</p> <p>なお、出席がシラバスに定められた規定時間数に達しないものについては不良科目とみなし、成績評価は 1 とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>本校に修業年限以上在籍し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に卒業の認定を行う。卒業に必要な単位数は科目配当表に示す通りとする。</p> <p><目指すべき人材像></p> <p>美容師国家資格を取得し、美容技術を通して社会で活躍する人材</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>クラス担任制をとり、本人および保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また担任のみならず、カウンセリングルームの紹介など、学校にかかわる全教職員でのサポート体制を敷いている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32 人 (100%)	0 人 (0%)	32 人 (100%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等) 美容師やネイリスト、アイリスト、美容部員等美容業界
(就職指導内容) 履歴書添削や面接指導だけでなく、各サロン・企業様による会社説明会（ガイダンス）を年に数回実施。また美容業界のプロの方によるデモンストレーションを取り入れた授業内容も展開している。
(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師国家資格、ABE まつ毛エクステンション
(備考)（任意記載事項） コース専攻により取得できる検定が異なる

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	1 人	3.0%
(中途退学の主な理由) 精神疾患から身体にも影響が出たため退学。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との面談の回数を重ねるだけでなく、保護者様との連携を取り、学校での状況を随時報告する。またご家庭の様子なども伺い、一人ひとりの生徒への対応方法について他教員への共有をし、生徒に合った生徒指導を実施する。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
美容科	100,000 円	730,000 円	約 510,000 円	施設設備費、教材実習費 (選択科目によって異なる)
ヘアメイク科	100,000 円	730,000 円	約 560,000 円	施設設備費、教材実習費 (選択科目によって異なる)
トータルビューティー科	100,000 円	730,000 円	約 490,000 円	施設設備費、教材実習費 (選択科目によって異なる)
エステティック科	100,000 円	730,000 円	約 500,000 円	施設設備費、教材実習費 (選択科目によって異なる)
美容研究科	0 円	370,000 円	約 330,000 円	施設設備費、教材実習費 (選択科目によって異なる)
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/nagoya-beauty/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。 学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社 Shin 代表取締役 小栗慎司 委員	令和5年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
飛鳥未来きずな高等学校 名古屋キャンパス キャンパス長 水澤 順一 委員	令和5年4月1日から 令和6年3月31日	高校関係者
株式会社 Shin スタイリスト 高橋 陽菜 委員	令和5年4月1日から 令和6年3月31日	卒業生
株式会社 コーセー ジルスチュアート 中村 立帆 委員	令和5年4月1日から 令和6年3月31日	卒業生
株式会社 インテンド 國島 徳博 委員	令和5年4月1日から 令和6年3月31日	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/nagoya-beauty/disclosure/		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sanko.ac.jp/nagoya-beauty/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H123310001533
学校名	名古屋ビューティーアート専門学校
設置者名	学校法人 三幸学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		79人	67人	81人
内 訳	第Ⅰ区分	51人	43人	
	第Ⅱ区分	12人	13人	
	第Ⅲ区分	16人	11人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				81人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		—	0人
「警告」の区分に連続して該当		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
		0人	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。